講義名	異文化間コミュニケーション論			授業形態	
担当教員	中川　典子	開講期・曜日・時限	後期 水曜日 ２時限		
		単位数	2	履修開始年次	１年生	ナンバリング・コード	FRL101

主題と概要

異文化間コミュニケーションは、1960年代初頭のアメリカ合衆国に始まった分野である。地球規模で文化の多様性が重要視され、多種多様な文化と接触する機会が益々増える現代において必須の学問的、かつ、実践的分野である。本コースの目的は、異文化間コミュニケーションの基本概念を学び、様々な演習活動を実践することで、異文化の背景と価値観、考え方をもつ人々との共存を可能とする持続的な異文化間コミュニケーション能力を養うことである。このクラスでは異文化間コミュニケーションの基礎理論に関する講義と演習活動の二つのアプローチを用いた授業を実践する。このコースは本学の「グローバル科目」のディプロマポリシーに掲げられた「グローバルな視点から、海外の社会や文化について学ぶ」という目標を、異文化間コミュニケーションの理論と実践を通して達成することを主眼としている。

到達目標

本コースでは以下の能力を養うことを目標とする。

(1)自己分析力を養い、自文化に対する客観的視野を養える。
(2)同一文化圏内に存在する多様性も含め、文化的多様性を尊重する態度を養える。
(3)他者の意見を傾聴し、尊重することの重要性を学び、他者を理解するための態度を養える。
(4)人前で堂々と自分の意見が言えるようになる。
(5)グローバルな視点で物事を考える力を養える。
(6)上記を踏まえ、本学の「グローバル科目」のディプロマポリシーに掲げられた「グローバルな視点から、海外の社会や文化について学ぶ」という到達目標を達成する。

提出課題

授業後に「学びと気づきの振り返りシート」を執筆し、期限までに提出する。翌週の授業の準備としてその他の課題を提出する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

受講生が執筆した「学びと気づきの振り返りシート」の幾つかを匿名で教員が紹介し、コメントする。その他の課題がある場合は、提出された内容を統括し、スライドで提示しながら解説する。

評価の基準

(1) 課題（振り返りシート、その他）（60%）
(2) 定期レポート試験（30%）
(3)授業態度（10%）

＊コースの評価は、上記の成績評価基準のすべての項目を総合して行うが、一つでも取り組まなかった項目がある場合は不合格となる。

履修にあたっての注意・助言他

(1)前掲のように、コースの評価は上記の成績評価基準のすべての項目を総合して行うが、一つでも取り組まなかった項目がある場合は不合格となる。
(2)15分以上の遅刻は欠席となる。コースの3分の１にあたる5回以上の授業を欠席すると定期試験の受験資格を失い単位を取得できなくなる。3回の遅刻で欠席1回となる。
(3)課題はMS Word形式で提出すること。スマホからの写真やテキストでの提出物は受理しない。
(4)授業中の態度が著しく悪い、グループワークに真摯な態度で参加しないなどの態度が見られた場合は大幅な減点となり落第する可能性があるため留意すること。
(5)提出課題を含むすべての連絡事項はRyuka Portalのキャンパスクロスを通じて行うので、必ず確認すること。

*その他、授業に関する詳細については第1回目の講義資料で説明するので、必ず出席すること。

教科書

.使用しない.				

参考図書

.異文化トレーニング.	八代京子、ほか	三修社	3,190	9784384012439
.異文化コミュニケーション-新・国際人への条件.	石井敏、ほか	有斐閣	3,200	9784641182554
.異文化コミュニケーション・キーワード.	古田暁、ほか	有斐閣双書	1,980	4641058741

その他

ハンドアウトおよびその他の資料は、授業中に配布し、適宜、キャンパスクロスにも掲示する。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	○	ウ：ディスカッション、ディベート
○	エ：グループワーク		オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（ＡＬ型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）				

備考	このコースは一方的な講義のクラスではないため、真摯、かつ、積極的に授業内活動に参加することが求められる。第1回目の授業で履修に関する重要な説明をするので、必ず出席すること。授業に関する連絡はすべてキャンパスクロスを通じて行う。

授業計画

第1回 コースガイダンス：履修に関する重要事項の説明とミニ講義
予習：「コミュニケーション」の意味について考察し、課題として執筆、提出すること。（120分）
復習：授業資料を確認し授業の進め方と「異文化間コミュニケーション」分野の成り立ちについて理解しておくこと。（120分）

第2回 コミュニケーションとは（１）：コミュニケーションとは、コミュニケーションレベルに基づいた類型、対人コミュニケーション過程の要素
予習：副題のキーワードを事前に調べておくこと（90分）
復習：授業資料に基づき、学習内容を復習すること（60分）・授業で学習した内容が、自身の日常生活と体験にどのように関わっているのかを考え、振り返りシートを提出すること（90分）

第3回 コミュニケーションとは（２）：コミュニケーション理論とモデル
予習：副題のキーワードを事前に調べておくこと（90分）
復習：授業資料に基づき、学習内容を復習すること（60分）・授業で学習した内容が、自身の日常生活と体験にどのように関わっているのかを考え、振り返りシートを提出すること（90分）

第4回 コミュニケーションとは（３）：文献調査に基づくコミュニケーションの定義
予習：副題のキーワードを事前に調べておくこと（90分）
復習：授業資料に基づき、学習内容を復習すること（60分）・授業で学習した内容が、自身の日常生活と体験にどのように関わっているのかを考え、振り返りシートを提出すること（90分）

第5回 コミュニケーションとは（４）：コミュニケーションの５大基本前提、アクティブ・リスニング
予習：副題のキーワードを事前に調べておくこと（90分）
復習：授業資料に基づき、学習内容を復習すること（60分）・授業で学習した内容が、自身の日常生活と体験にどのように関わっているのかを考え、振り返りシートを提出すること（90分）

第6回 文化とは（１）：閉じた質問 vs. 開かれた質問、文化とは、「レインボーウォー」から文化の特徴を探る
予習：副題のキーワードを事前に調べておくこと。「文化」の意味について考察し、課題として執筆、提出すること。（90分）
復習：授業資料に基づき、学習内容を復習すること（60分）・授業で学習した内容が、自身の日常生活と体験にどのように関わっているのかを考え、振り返りシートを提出すること（90分）

第7回 文化とは（２）：第３文化の子供たち、文化の定義、文化における3つの切り口
予習：副題のキーワードを事前に調べておくこと（90分）
復習：授業資料に基づき、学習内容を復習すること（60分）・授業で学習した内容が、自身の日常生活と体験にどのように関わっているのかを考え、振り返りシートを提出すること（90分）

第8回 文化とは（３）：社会階層と格差、在留外国人統計、日本における外国人問題1 （技能実習生問題）
予習：副題のキーワードを事前に調べておくこと（90分）
復習：授業資料に基づき、学習内容を復習すること（60分）・授業で学習した内容が、自身の日常生活と体験にどのように関わっているのかを考え、振り返りシートを提出すること（90分）

第9回 文化とは（４）：日本における外国人問題2（看護師・介護士問題、不就学児童の問題）
予習：副題のキーワードを事前に調べておくこと（90分）
復習：授業資料に基づき、学習内容を復習すること（60分）・授業で学習した内容が、自身の日常生活と体験にどのように関わっているのかを考え、振り返りシートを提出すること（90分）

第10回 文化とは（５）：浜松国際交流センター（HICE）の活動、文化の基本前提
予習：副題のキーワードを事前に調べておくこと（90分）
復習：授業資料に基づき、学習内容を復習すること（60分）・授業で学習した内容が、自身の日常生活と体験にどのように関わっているのかを考え、振り返りシートを提出すること（90分）

第11回 知覚とカテゴリー化：知覚とは、焦点象（図）と背景象（地）、サピアウォーフの仮説
予習：副題のキーワードを事前に調べておくこと（90分）
復習：授業資料に基づき、学習内容を復習すること（60分）・授業で学習した内容が、自身の日常生活と体験にどのように関わっているのかを考え、振り返りシートを提出すること（90分）
第12回 カテゴリー化とステレオタイプ：カテゴリー化とステレオタイプの特徴
予習：副題のキーワードを事前に調べておくこと（90分）
復習：授業資料に基づき、学習内容を復習すること（60分）・授業で学習した内容が、自身の日常生活と体験にどのように関わっているのかを考え、振り返りシートを提出すること（90分）
第13回 マスメディアとステレオタイプ：ケリーの実験、ビデオエクササイズ（ガンホー）
予習：副題のキーワードを事前に調べておくこと（90分）
復習：授業資料に基づき、学習内容を復習すること（60分）・授業で学習した内容が、自身の日常生活と体験にどのように関わっているのかを考え、振り返りシートを提出すること（90分）
第14回 マイクロ・アグレッション：マイクロ・アグレッションとは、マイクロ・アグレッションの事例、マイクロ・アグレッションの問題点
予習：副題のキーワードを事前に調べておくこと（90分）
復習：授業資料に基づき、学習内容を復習すること（60分）・授業で学習した内容が、自身の日常生活と体験にどのように関わっているのかを考え、振り返りシートを提出すること（90分）
第15回 偏見と差別の逓減に望まれる態度：エンパシーとシンパシー
復習：授業資料に基づき、学習内容を復習すること（60分）・授業で学習した内容が、自身の日常生活と体験にどのように関わっているのかを考え、振り返りシートを提出すること（90分）定期レポート試験の準備（90分）

＊授業の進捗状況により、内容を調整する場合がある。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

異文化間コミュニケーションの理論を現代のグローバル社会で起きている問題に応用し、考察することにより、知識を知恵に転換することができる論理的思考力を身につけ、多様な視点の獲得により新しい価値を生み出す創造力を醸成する。また、国内外の人たちと円滑なコミュニケーションをとることができる素養を身につけることにより、卒業時に身につけておくべき資質・能力の育成につなげる。これらの能力は商学部生に求められる変わりゆく経営環境の動きに強い関心を持ち、企業組織の中でリーダーシップをとって具体的な改善や解決の 提案ができるための基礎知識の獲得、経済学部生に求められる人間、社会、自然に関するこれまでの学問的成果の基礎を身に着け、現代社会の諸問題を幅広い観点から考察し、課題を提案することができる力の育成、そして、人間社会学部生に求められる現実社会の様々なテーマに取り組み、よりよい人間社会を創造することができる学生を育てるという理念の達成に役立つ。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

提出された前回の授業に関する「振り返りシート」の幾つかをを教員が紹介し、コメントする。授業内容、その他に関する質問は授業中および随時、振り返りシートを通じて受けつけ、授業中またはキャンパスクロスを通じて回答する。また、授業ではディスカッションやグループワークを活用しながら、学生間のインターアクションに留意した授業を展開する。

実務経験の有無及び活用

実務経験なし。